



Iwate Prefectural Hanamaki Minami Senior High School

岩手県立花巻南高等学校

同窓会報



2015



●発行 岩手県立花巻南高等学校同窓会事務局 〒025-0053
 岩手県花巻市中北万丁目288番1
 TEL (0198) 23-4236
 FAX (0198) 23-4365
 URL : <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>
 印刷 トーバン印刷(株)



ご挨拶

同窓会長 瓜生 祐子
 (高女33回生)

新しい年を迎え、会員各位の益々のご健勝を念じながらご挨拶を申し上げます。爆弾低気圧の襲来を心配した年始めて安堵したものの、2015年は第二次世界大戦の終結から70年という節目の年だったのです。正月の新聞記事は私どもの女学生時代の屈從生活を思い出されるものが多く、改めて平和の大切さを感じました。

そこで戦争体験者として何か後輩に伝えなければと考え一部分を述べたいと思います。

最高学年の4年生の8月10日、学び舎に爆弾が投下されました。あの時のおのきは忘れませんし上町他に落とされた爆弾で町の中心部から大火事になり、帰る家を失った友達がたくさんいました。それでも休まず出校し働いていましたが、8月15日、全校生徒が時中堂に集められ天皇陛下の玉音放送にすずり泣きをしました。勝つと信じていたものが敗戦というみじめな結果に呆然といたしました。加えてその忌わしい戦争で300万人もの尊い日本人の命

が奪われたことは忘れてはならないのです。ついでに授業内容について述べます。

○1年生 普通授業
 ○2年生 校庭の開墾や農事作業 (こやし担ぎ他。)
 ○3年生 学校工場で軍隊の縫製作業。
 ○4年生 前年と同じだが主にミシン踏。

因みに「学力」をつける勉強は殆どありません。そして進学した時、基礎学力の不足で困難を極めました。

そんな惨めな学校生活でしたが、4年生の時は様々な役割を与えられ、責任感等身についたこともあり。特にミシンでの縫製はノルマ等きびしく、夜空の星を仰ぎながらの帰宅と早朝の出校などががんばることも学び、生きる力や団結することの大切さが身につきました。

4年前の創立100周年事業が成功できたのも、あの時培われたみえない力が発揮出来たのかもしれない。

それもこれも会員の皆さんの

後立てがあればこそと感謝申し上げます。

100周年もよかったです、今年度の全支部の総会もみごとでした。出席者の総計が600名を超えました。5支部それぞれの取り組みも工夫されて楽しい会になっていきますのでお互い交流もあれば更により運営が期待されます。本部についてもお声を届けて下さるようお願いいたします。

次に会員の活躍がめざましく、今回(3月24日)も受賞を祝う会に7人の方に招待状をあげました。その他、各分野で活躍する同窓生のお名前が目につります。南23回奥友久美子さんのスイス人との交流とか、南45回那須川端穂さんの駅伝などうれしく思います。新聞への投稿も年々ふえてきましたし、各界でのめざましい活躍をしている同窓生のことをみるにつけて、聞くにつけて、勇気づけられています。これからもそういう人々が多く生まれてくることと思いますし、母校のためにも世の中のためにも、会員各位が活躍なさるようご祈念申し上げます。

終りに、下記のご案内をご覧の上、平成27年度総会にご出席下さいますようお願いいたします。挨拶を結びます。

ご案内

平成27年度岩手県立花巻南高等学校
 同窓会 総会

- 日時 平成27年7月12日(日) 午前10時20分より
- 会場 花巻温泉 千秋閣
 総会終了後、懇親会を行います。(北上翔南高校の鬼剣舞 ◎出演交渉中!!)
- 会費 5,000円
 是非お誘い合わせの上、ご参加ください。





楽力

校長 菅原 教紀

近頃、テレビで時折見かけるCMが心に残っています。そのキヤッチコピーは、「音楽は、言葉を超える」です。岩手県内の音楽関係の会社が出しているCMです。

その内容に、CMを見た視聴者が感動に包まれています。その輪は、少しずつネットの世界を中心に広がっているようです。

テレビ画面には、結婚式の場面が映し出されます。司会者の紹介で新婦の父親がおもむろに立ち上がり、ピアノに向かって行きま

す。父親が弾き始めた途端、純白のウェディングドレスを着た花嫁から涙があふれ出します。その曲は、紛れもなく花嫁が幼少の頃、亡き母親に教えられた曲だったのです。母親亡き後、娘は成長するにつれ父との間に、見えない確執を感じ始めます。そして、些細なことから反発した娘は、成人になり家を出て行きます。残された父親。長い間閉じられたままのピアノ。家族

3人が写る写真を見つめる父親。そして父親は、ピアノを習い始めます。流れるメロディーは、亡き母と共に、花嫁になった娘に贈る父親からのメッセージです。娘の旅立ちに、母親と共に奏でる優しい言葉です。確かに、「音楽は、言葉を超える」ことの証です。

花巻南高校の歴任教員の中に、「藤原 嘉藤治」がいます。大正10年9月、宮沢トシさんが同月12日付で依願退職した創立10周年の年から、昭和9年12月、創立25周年の年まで、岩手県立花巻高等女学校時代に教諭として在職し、音楽を指導したとの記録が残っています。藤原嘉藤治は、花巻農学校時代の宮沢賢治に多大の影響を与え、「セロ弾きのゴージュ」のモデルになっています。宮沢賢治は、音楽のすばらしさを藤原嘉藤治に教えられ「農民精神歌」を作詞しています。親交は厚く、宮沢賢治自ら藤原嘉藤治の仲人になり、長女・長男の名付け親にもなっています。

います。宮沢賢治が、羅須地人協会の看板を掲げ、「世界がぜんたい 幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」との一文を載せている「農民芸術概論要項」を発表した時期も、藤原嘉藤治は、宮沢賢治の夜の音楽活動を全力で応援しています。そして、昭和8年、宮沢賢治が、永久の世界へ旅立つた後、藤原嘉藤治は、賢治の弟の宮澤清六や高村光太郎らとともに、宮沢賢治全集の出版に尽力し、完成させています。

音楽が取り持った縁は、2人を強く固い絆に導いています。未曾有の災害をもたらした東日本大震災においても、日本はもとより世界の多くの演奏家が被災地に赴き、震災で傷ついた人々の心を癒してくれています。それほど音楽の力は大きく、人々の励ましになっています。

音楽による癒しの世界は、いつの世にも必要なのだと感じております。結びに、同窓会諸氏の在校生に対する力強いご支援をあらためてお願いし、日頃のご協力に対する御礼といたします。

役員 寄稿

同窓生の慶事

副会長 小瀬川 陽子 (南高5回生)

日本は元より、世界中にとんでもない自然災害や暗いニュースが多かった2014年、この年のノーベル物理学賞に3人の日本人の先生方が、受賞に輝きました。このことは又国民に大いなる勇気を与えてくれたと思います。

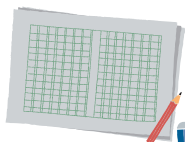
さて花南同窓生の平成26年の栄えある慶事は11頁に掲載しております。

し認められたことに敬意を表するものです。同窓会会則 2条 目的 「会員相互の親睦をはかる」 慶事規定 慶事 「本会の会員並びに本校の特別会員(教職員)であったものが国家的栄典(叙勲、褒章等)及び県政功労賞を受賞した時は、理事会で協議し祝品を賜る」(抜粋)とあります。

同窓会では、受賞した方々と会員のみなさんと共に喜びを分かち合いたく祝

賀会を計画しております。此の度は27年3月24日(火)「渡り」での開催を予定しております。

各回生の理事さんを通じて、ご案内がありますので多数のみなさまのご参加をお願い致します。これからも母校の生徒や同窓生に嬉



2014年度 同窓会役員

副会長

- 小瀬川 陽子 (南高 5 回生)
- 齋藤 ワカ子 (南高 11 回生)
- 佐藤 貴子 (南高 13 回生)

常任理事

- 菅沼 ヒデ (高女 30 回生)
- 高橋 昭三 (南高 2 回生)
- 千葉 金吾 (昭和 35 卒)
- 葛巻 久美子 (南高 18 回生)

監事

- 石川 映代 (南高 6 回生)
- 佐藤 洋子 (南高 14 回生)
- 高橋 睦子 (南高 25 回生)

恩師寄稿①

私の花巻南時代
アラカルト

高橋 久吉 先生

はじめに

新年早々に原稿の依頼が届き、普段からペンを持たない恥を、さらけ出す怖さにもずおののいてしまった。

私の赴任は1971年(昭46)から6年の在職で最初に出会った子どもたちは、もう還暦を迎える年頃になる。「光陰矢の如し」とはこのことなのだろうか」と改めて我が身を振り返ることになった。

―第21期生との出会い―

そんな当時、はつらつ、清新な40名の新入生を受け持つことになりました。優しく、気遣いを忘れない生徒たちでした。私の誕生日には必ず黒板にお祝いのメッセージを寄せ、ハンカチのプレゼントなどを欠かさなかつた。3年生の夏、私に長男が誕生すると、なんと「元気で逞しく成長してください」と、雄々しい



『兜』と大きな拍手でお祝いをしてくれました。これらはほんの一例です。さて、

北海道への修学旅行

修学旅行は、生徒全員のアнкеートにより決められた。結果は本校初で最後の記録はないので最後の「北海道」へ、ということになる。季節は夏休みが始まる7月の6泊7日の大型旅行、同年2月に冬季オリンピックが開催されていて、その熱気がまだ覚めやらぬ頃とはいえ、広大な大地へ少女としてのあこがれが加速したのではなかったと思います。私も「生徒たち、してやったり」と内心中、喜びを隠せず、コースのパンフレット作りに係の生徒と念入りに作成したことを思い出します。

花巻駅を出発して、順調に期待通りスケールの大きい旅が続いて4日目、「天都山展望台・オホツク流水館」の見学を終えて網走原生花園に向かう途中、副担任としてバスに同乗して

いた伊藤三四治先生が、運転席側から「おーい、荷棚から僕のバッグを取ってくれ」と叫びます。「はい」と、快い返事でソフトボー

ル部のMさん。バッグは自分の座席より後側にあつたため、腰を急激に回転させて掴かもうとした瞬間に、『ギグ』、「あーッ、痛い」と叫んで倒れ込んでしまいました。椎間板ヘルニアの重症です。急遽、網走へ立ち寄り病院に入院。治療を受けた後、苦痛と孤独に耐えながら懸命に一夜を過ごしたのです。付き添いとしての私は全く無力でした。

翌日、完全ではないものの痛みが和らいだので、この日の札幌宿泊に合流することで行動を起こしました。朝早く、ホームの階段を抱えて網走駅を出発、札幌駅に到着したのは夕方になりました。ただちにホテルへタクシーで向かう、ホテルではクラスメイト全員が抱き合つて喜びます。中には、涙する生徒も。と、そこに両親が居るではありませんか。なんと、連絡を受けてその日の夜に自家用

車で駆けつけたのです。

Mさんも安心です。その夜は家族と部屋を共にし、翌日からは母が付き添いながら最後まで旅行を続けることになりました。旅行業者の粋な計らいとクラス全員の絆が、旅の思い出を一層厚いものにした壮大なドラマであつたように今でも私には思えてなりません。

―第24期生との出会い―
実は一昨年8月、37年ぶ

りの同級会に案内をいただいて出席しました。もともと当時から、明るくて屈託のない元気一杯の生徒たちにはすばらしい発想力もありました。今も継承されているという「花南祭」を創りあげたのはこの学年の生徒たちです。この歳月でも変わらない様子に思わず目がほころびました。さて、



教室小梁剥落余話
事故の大筋は、「花南60

年史」昭和50年度欄に記述されている通りであるが、ここにも偶然すぎるという事実があつたので追加しておきたい。

当時私は、生徒会を担当していました。第一期の定期調査後に企画される「校内球技大会」(通称・クラスマッチ)は生徒たちにとつて最大の楽しみである。当然、学校の「年間行事計画」に日程が組まれていて、2日間を終了することになつ

ている。第1日目の各試合は順調に消化され、残る試合は一部準決勝と決勝が2日目となる。その2日目は、あいにくの雨天で、外の種目は絶望であつた。もちろん、種目の花形は「ハンドボール」である。職員チームを破つて3年5組には勢いがあつた。

当日の朝の職員会議で対処の協議が始まり、中止、延期の両案では「延期」に異論はなかつた。延期日を何時にするかの段階で、私が発言を求められ、とつさに「グラウンドコンディションの状態から翌日は控えたい」という観測を根拠

に「一週間の先延ばし」を提案して、了解を得られた。

さて、週が明けて、決勝に進出した3年5組は、クラス全員が一丸となって応援合戦に声を嗶らしていた。その最中に、天井の小梁の仕上げ材であるコンクリートの塊が剥落したのである。教室の小梁は縦に三筋連なっているが、特に真ん中の崩落が大きく、授業中であれば大惨事になるところであつた。

偶然と言うには、余りにも震撼させられる出来事であつたが、3年5組は自らの団結力で、不幸な歴史を回避したのである。天晴れと今でも賛辞を呈して止まない。

おわりに

当時の教職員は、何かと仲間意識が強く、共に行動することが多かった。以来40年を超える歲月、赴任先がどこに変わろうと「花南会」として、一度も欠かすことなく例会が続いている。みな「さん」付けで、歴代の校長である故・木原正和さん、先代の校長である菊池豊さんも一員であ

る。現職は全て居なくなつたが、回を重ねる度に、当時の生徒たちの個性、成長して声をかけてくれる逞しい教え子たちの話題は尽きない。

男女共学になつても、校名が「花巻南」で本当によかった。私たちはいつまでも「朝高野の花の下」、応援団としていられることが幸せだからである。

恩師寄稿②

「陸上競技部と
ともに」

齋藤 眞弘 先生

創立80周年を迎えたばかりの花巻南高校に体育科教諭として赴任し、平成5年4月～13年3月までの8年間お世話になりました。福岡(3)、花巻農(12)、高田(8)、盛岡三(7)、花巻南(8)年の38年間の教員生活でしたが、陸上競技に明け暮れた毎日、生徒にも恵まれて結果を出すことが出来、充実した教員生活を送

ることが出来ました。

花巻南高を希望したのは、花巻農業高時代に、一度ではありましたが全国高校駅伝に出場し、13位になった時の味が忘れられず、最後の花南で、是非女子の高校駅伝で全国へ駒を進めたいとの思いで転勤してきました。

当時の花巻南は、平成3年4月に現在地の新校舎に移転し、同時に男女共学、普通科に体育コースを設置、国際科を新設して装いを新たにし、教師も生徒も高い志を掲げ、学校全体が意気盛んに歩みはじめた3年目の時でした。

文武両道を旗印に、学力向上に励み、私は、体育コースの主任として武の方の向上を旨とし、陸上部はもとより、体育コースの教員、各部の顧問の協力を得て、運動部全体の向上に頑張りました。その成果は早速現われ、平成6年度、それまで数名だった国公立大の合格者が21名となるなど、その後も維持していった。運動部の方も、もともと強い部があったのですが、

平成6年度の新人戦で優勝旗4本獲得し(陸上女、ソ

フトボール、剣道女、ソフトテニス女)、県内最高の獲得校となり、その他準優勝(剣道男)、3位(バレー女)、ベスト8に沢山連なる強豪校となった。次年度の高校総体でもその力を維持し、12の部がベスト8以上の成績を収め、その後も続くこととなった。文字通り教員、生徒一体となって、文武両道の道をかけ上がりはじめた感があった。

そんな中で陸上部は、県内のトップ選手が数名いる発展途上にあり、今後が期待される状況であった。当時の高校陸上界は、高校総体は、盛岡南が5連勝中であり、高校駅伝は、花巻東が7連勝中、この圧倒的強い両校を倒さない限り優勝はむずかしい状況であった。そのような中で、市内や近郷の北上、遠野などから県のランキング選手が入学するようになり、長距離も田野畑、種市、盛岡等々から県下のトップクラスの選手が集まりはじめ、いよいよ、トラック、フィール

ド競技や駅伝競争においても優勝への駒がそろうようになった。ただ、寮がないので延べで10名位の長距離選手を自宅に泊めることになり、食事等で家内に迷惑をかけることになったが、部員数も多い時で78名、少ない時でも60名弱を擁する大世帯となり、短・長・跳・投と各部門に選手がおり、新しく作られた400Mトラック、フィールドは、にぎやかな練習風景であった。そうした中で、女子は、平成6年度県高校新人大会で初優勝し、以後3連勝を含め平成12・13年に連続優勝を飾る。県高校総体でも、ずーっと準優勝を続けていたが、平成9年によく5連勝中の宿敵、盛岡南を破って初優勝を果たし、以後、平成13年の2度目の優勝へとつなげ、その間インターハイや国体への出場入賞を続け、県内トップの一翼をになうようになった。

一方、駅伝においては、平成4年から平成7年まで準優勝で悔し涙を流してきたが、平成8年に「13秒の僅差」でライバル花巻東の

8連勝を阻んで初優勝、夢であった京都の都大路に駒を進めることが出来、関係者一同で大喜びしたことが思い出されます。その後、平成10年、平成11年、平成12年、平成14年と5度の優勝を飾り、県下に花南の名前を知らしめることになりました。しかし、経費がかさむこともあり、同窓会やPTAの役員の方々には、寄付集めに大変お世話になり、また同窓会の方々には、多大な援助を戴き心から感謝いたしております。

男子の方も、初年度1人の入部から始まり、平成12年度には県高校新人戦では総合優勝し、男女アベック優勝をするまでに成長しております。平成6年には花巻南高男子初のインターハイ選手が誕生し、その後もインターハイ・国体などに出場する選手が現われ、2名の入賞者を出しております。駅伝においても、中学校時代それほどの実績のない選手の集まりでしたが、女子に負けじと練習に励み、平成9年、平成13年に県高校駅伝で3位に入賞

し、東北高校駅伝にも出場しております。しかし、みんな順調にいったわけではなく、新人戦で6回優勝しながら、高総体では2回しか優勝できなかったし、駅伝でも最強メンバーの揃った平成13年に全国大会出場を逃しており、今でも悔やまれます。

また、女子高校駅伝の目標は、全国で20番台、2時間11分台でしたが、30番2回、タイムは2時間12分14秒とあと少しでクリア出来なかつた無念さを残したまま、終わってしまった。

結びに、教員生活最後の花巻南高で、すばらしい生徒や先生方、また同窓会等学校関係者に支えられて、楽しい8年間の学校生活を送らせていただいた事に感謝いたします。今後、花巻南高・同窓会の益々の発展を祈念いたします。

花巻南高・同窓会の益々の発展を祈念いたします。



定期総会

定期総会に参加して

中村 キ叉子
(花南9回生)

伝統と歴史ある南高同窓会に参加するようになって10年位になる。5月の理事会終了後、当番監事としては最後、懇親会の司会も引き受けることになってしまった。

早速、各組の監事と連携をとって、盛岡から4人含む26人もの参加者が決まったことは、とても嬉しく思いました。次は、指導者、演目、練習場所など、最初の演目はすぐに決まり、練習も始まった。だが2つ目は目途もたわずに、焦りを感じずの日々が続く。誰か教えてくれる人はいないだろうか、と思い悩んで伊藤さんへ電話。何と、タイミング良く、『今年は演目に、和物が無い。踊りも教えてくれる後輩がいる。衣装もある』との朗報にすぐ様飛びついた。話し合い、顔合わせ、踊りに進み6月末の初踊りから3回目は、総会の3日前で

した。練習にも拍車がかかりました。心配なことは、一度も全員揃って練習できなかったことです。そして、翌日、同級生の1人が、「せっかく26人も参加して下さるんだから、お部屋をとって、皆で懇親会を持ちませんか。コーヒー、ケーキでも頼んで」との提案があり、クラス毎連絡をとって開催することに致しました。

総会当日がきました。私は、受付で懐かしの顔・顔・顔の参加者を待ちました。総会でしか会えない方もおります。総会は、予定どおり進行して、報告、承認されてゆきました。そして、今日この席に担任だった及川節子先生も列席されていることを知り、皆驚き、喜びました。理事会の席で『先生がお元気ならお呼びしてほしい』と事務局へお願いしておりましたから、私達同級生の仲間から、もう一つの懇親会《及川先生を囲む会》の準備がすめられておりました。

21名。もう皆タイムスリップ。まずは、自己紹介、クラブ、家庭のこと、仕事、そして何より健康のこと、先生の誕生日は大正13年2月生まれ、1人で一関から電車で来られたことに驚きと感動。コーヒー、ケーキも皆でおしゃべりと共に胃袋に。あつという間の1時間半でした。最後は全員で記念撮影。またの再会を約束して先生を花巻駅までお送りいただいた。

朝から張りつめた緊張感が、とつても心地よい1日となりました。最後に南高の発展と、同窓会のみますの御盛会をお祈り申し上げます。

仲間に感謝

小原 信子
(南高19回生)

花巻南高を卒業し40数年、ついでこの間のこと…といふのは多少オーバーになります。私が、本当にアツという間だった気がします。

卒業後、横浜にある総合病院の医療事務の職に就き寮生活でしたが、とても家族的な職場でしたのでとにかく楽しくホームシックにかかることもない3年半でした。2年で花巻に帰ってくるという条件での横浜行きでしたが、なかなか踏ん切りがつかず1年半ものばしてしまいましたが、最後は仕方なく泣き泣き帰って来た気がします。

今でもその時の仲間達とは年1回集まり交流を持っています。横浜は大好きな街です。花巻に帰り、タイミングよく開店間近の調剤薬局に勤められることとなり前職の経験を生かして仕事ができることになったのはとても恵まれたことで35年勤務し、多くの方達と知りあえたのは、とても幸せなことでした。定年前の退職でしたので元気なうちは仕事を続けることも大事だと思っただけですが、逆に元気なうちに自分の足で歩けるうちにいきたい所に行き、したいことをしよう！と思い、初めての主婦という職につきました。初めての海外旅行も経験したり、市で行われている色々な教室に参加できたり、今は毎日が充実できています。

私の不慣れた司会をサポートして下さいました葛巻様、本当に心からお礼を申し上げます。

部屋を移して9回生と及川節子先生を囲む会は参加

南高の理事という役目をよく理解もせずにお引き受けして3年、後悔ばかりでした。ましてや当番監事がご祈念します。

会員だより

私は第1回卒業生

齋藤 澄子

旧姓 長原
(南高1回生)



私たち老夫婦は毎日夕方

散歩をしています。コースは岩崎運動公園一周で時間は30分間ほど。

グラウンドの土手の芝生はきれいに刈り込まれていて色々な木々が植えられています。春にはピンクや白の山ぼうしの花、秋には枝っぱいの赤い実。萩の花や紅葉、どんぐりなど、冬は木々に雪が咲き……。どちらを向いても山や空も美しくお気に入りの散歩道です。

この間、岩崎城跡に続く坂道から「ヤッホー」という子どもたちの声、見上げると学童保育園の先生と児童たちでした。声の先は

ちようどグラウンドの上空でパラグライダーが悠悠と浮かんでいました。空気も澄んでいて空中で開放感を満喫しているんだらうな、としばらく見上げていました。

グラウンドの中央に降りてくるのかと期待していたのですが、夏油の方に向かって行ってしまいました。「こせこせするな、肩の力を抜いて生きろ」という声を聞いたように思いました。

さて、高校時代の思い出をたどれば、1年生の時は第一校舎「岩鷲山は峨々として千古の白雪天をつきま」が大好きで、今でも口ずさめば勇気が出ます。2年生は第二校舎、3年生は南高を選び、担任は佐々木フズ先生でした。「徒然草」を1年間教わりました。「月の沙漠」の好きな英語の畑中四方治先生、人気者の鎌田先生……。たくさんのかしい笑顔が浮かんでき

す。夏休みに友だちと2人で受験勉強としやれて教室で勉強している中に眠くなり机にふせていたら、突然ものすごい音。雷が屋根に落ちたということでした。ロードレースや運動会、ふり返ると古い映画のフィルムを巻き戻すように良き時代が甦ってきました。テレビや色々なところで有名な曲に出会うと「あ、これも河村愛子先生に教わったつげ」と思い出されます。

フズ先生は北上在住で、それまで頓挫していた北上支部を卒業生に声をかけ、支部を卒業生に声をかけ、名簿作りから、いろいろ指導され、組織作りをされ、北上支部同窓会をさかんなものにして下さいました。今や支部員は700名を超えています。長いこと役員もさせていただきました。

これ迄、たくさんのお話をお聞きし、豊かな心の糧をいただいております。

2年に1度の総会、講演、懇親会が楽しみです。1人でも多くの方が同窓会に関心をもち、会を盛んにしてほしいと思います。単に思い出を語るのみではなく、活動を通してこれからの生き方を学び、その広がり、発展が母校への大きな支えになると思っています。

第1回卒業生は、現在79才。もうすぐ80才なのにその実感がなく、気持ちに変わりのないのが不思議です。鏡を見れば私は「生きた化石」のようです。でも伝統ある花南卒業生ですから誇りをもって日々年相応に体を動かし、お化粧もし、明るい笑顔で小ざれいに生きてゆきたいと思えます。

先日、ギャラリー「ぶん」の展示作品を見たくて1人車を走らせた。

花巻南高校の思い出

中山 敏子

(南高2回生)

なにしろ、そちら方面に行くのは初めて。途中で案内ハガキの地図を見るのだけれど、細かくて見えない。しまった、別のメガネ持ってくるの忘れてた。

とにかく、そちこち、それらしき道路をめぐりめぐってついたところが、なんと、花巻南高等学校と書かれた校門前、車から降りた。エッ、おしゃれ！学校とは思えない佇まい。

あれこれと想いを巡らせながら暫し「ぶん」を忘れて時間をつぶした。考えると卒業してから60年ぐらいいかな？今ペンを走らせながらの計算だが。これ程の時間が流れているのである。思いがけず新しい我母校を目の当たりにして、1人、しかもちよつとおセンチになつて久し振りの若かりし頃にひたつたのである。青春時代の様々が頭を過る。あれも、これも

と、でもやっぱり一番は部活のことかなあ。へとへとになったところに、担任の、今は亡き瓜生保先生が一言、「大丈夫か藤井」と……気遣つてくださる。その時の情景が脳裡をかすめる。だんだん胸がキュンキュンして来るのをおぼえ、車に戻った。でも次から次へと溢れ出て来るのである。そうそうこんなことも。進学のために一人旅立つとき、花巻駅に担任だった先生が白いバレーシューズを持って送りにいらしてくださいましたこと。なぜか今、急に思い出した。あれこれ思い出していると、きりが

ない。どれくらい時間がたつただろうか。急に「ぶん」に行くのが目的だったと思いつく。『ありがとう』南高の校門前に立つただけで、しかも当時とは似てもつかぬ校門なのに、あ、色々と思ひ出させていた。『たいもんだなあ』と

ところで、いきなりの原稿依頼が舞いこんで、もう困つたなあ。なんで私に来

たわけ。ブンブン。初めて同窓会に出たからかしら？ まあ色々考えたけど、やっぱり何か書かないわけにいかないかなあ。

そうだ思いがけずの校門前、あの一瞬をお伝えしよう。とそんなわけで、ブンブン、が感謝の「ありがとう」に変わりました。そうそう「ぶん」のこと、ご心配なく、まもなく、清水石材が見つかり、そして鳥居があつて「ぶん」が見つかりました。

イーハトーヴの世界

賢治生家
宮澤潤子
(南高3回生)

平成27年松もとれた1月寒風肌を刺す寒さに年齢を感じるこの頃です。

私は昭和20年終戦の花巻が戦火に見舞われた時は、小学校2年生でした。その時、私宅の離れに疎開をしていらした高村光太郎先生や私の家族と一緒に、上空を飛ぶ飛行機の下を、豊沢

川向こうの桜町という所に逃れました。私は幼な心にもなんとなく「今ここで死んでしまうわけにはいかない」と漠然と思つた記憶がございます。

私も今は9人の孫がいる後期高齢者となりましたが96歳で亡くなりました父清六に「もう少し努力と忍耐を持つて使命感なるものを果たしなさい」と云われている感じがしてなりませ

イーハトーヴオという言葉葉は賢治の造語で、賢治の考えたイーハトーヴオという世界は死後や空想理想の世界ではなく、今の次元を超越した一段階上の社会、世界であると考えます。ここでの「世界」というのは環境問題を含め人間、動物、植物、鉱物全てを指し示します。

世界がぜんたい幸福に
ならないうちは個人の幸福はあり得ない
という賢治の言葉を胸に、
誰しも持っているやさしい
思いやりの心を大切に、又
同窓会に御出席になる皆様
のやさしい笑顔を思い浮か

べながら一日一日を大切に皆様と御一緒に生きたいと思ふ昨今です。

最後に、同窓会館に収めてある賢治の詩を紹介いたします。これは当時の花巻高等学校（現在の花巻南高等学校）の現職として働いていた賢治の妹トシのことを思つて作られた詩です。

日曜にすること
運針布を洗濯し
うん針を整理し
試験をみる
それから つばきの花をかき
本をせいりし 手げいをする
とノートのはじめに書けるなり。

「冬のスケッチ」より
宮沢賢治



文芸作品 (エッセイ)

はらこめし

照井重美
(南高16回生)



「いいサケが出てきたから何時来ます？」そんな誘いに季節の変わり目を感じる。秋も深まり、肌寒さを感じるようになる頃のこと。

土・日にかけて、仙台近郊まで出かけるのがここ数年の年中行事になっていく。「重箱を持つてきて詰めて帰れば」との義妹の言葉に、遠慮なく重箱を持参しての訪問となった。

初めて本場の「はらこめし」を口にしたのは、30年も前になるうか、義妹の実家の招待で宮城県亶理町を訪れた時のことである。

亶理町荒浜は阿武隈川の河口に沿つて集落が広がり、家並みは高い土手が川との境界になつている。程なく目前に太平洋が広がる。

「はらこめし」今では駅弁やコンビニ弁当などで珍しくもないが、当時は一地方の郷土料理だったと記憶している。

私ら夫婦を招待したこと、親類や近所の人が集まり、早朝から支度をしたこと、地元では日常のこ

とらしかつたが、大掛かりなもてなしだった。初めて目にした「はらこめし」は、盛り付けの豪華さにはばし見とれ、箸を付けるのが躊躇われた。一口食べると直ぐに、鮭とはらこのコンビネーションが程よい味となり口いつぱいに広がる。勧められるままに何度もお代わりをした。

社交辞令で作りを訊ねた。鮭の雄と雌を使うと聞いただけで、これは作るものではなく、ご馳走になるものだと直感した。その後機会ある毎に晩秋の海辺の幸を堪能させてもらっていた。

ある時、義妹がレシピをくれた。新聞記事の切り抜きではあつたが、多分彼女の生家の作り方に一番近い方法だったのだろう。しかし自分で作ってみようとは思わなかった。

そして東日本大震災、究極のはらこめしに出会った地は津波で流され跡形もない。幾度となく訪れたが、大歓迎されたあの家からの辺りだったのか全く分から

ず終い。
「お土産に切つた魚を用意したから、はらこは朝市で選んだらいいよ」明朝行く予定の閑上朝市は大好きなところ。用がなくても行く場所の一つだが、そこも震災で見る影もなく変貌してしまつた。震災の翌年3月11日、限定一日で市が開かれると知り見に行つた。力強く復興を進めようとする浜の意気込みを感じ安堵した。間もなくあの日から4年、視界から海を遮断していた防風林は無ければ、朝市は見事に再興され賑わつていった。

初めて口にした時、自分が作るなんて考えてもみなかったが、何度か挑戦し、それらしい物に仕上がるとな気がする。しかし一年経つとまた失敗……「イクラが変だけど美味しかったよ」孫の率直な感想で（まあいいか、私のはその程度だよな……）自作に納得する。

「はらこめし」との出会いの地が元の姿に戻ることはないけれど、暮らしている人々が一日でも早く、元の生活を取り戻してほしいと願いながら、今年も美味しく頂いた。

閑上の陽の出はキラキラと海面に映り美しく、そして穏やかだ。

支部だより

東京支部

監事 鈴木美保子
(南高13回生)

東京支部の同窓会は、遠くは岐阜、静岡、栃木、茨城、神奈川、埼玉県と多県に渡り同窓生が集まります。花巻を離れ、それぞれの地で生活し、第一回、桜の時期に上野精養軒での再会となります。

昨年と違わぬ顔、顔……挨拶やら、今年は55名の集まりの中、男性会員も6名の参加でした。花巻からのご来賓の方々も嬉しそうでした。

会の年間報告に始まり、皆様のご挨拶で、お食事の団らんとし、おしゃべりやら、食事やらと会場も楽しく騒がしい空気に満ちています。

今年のアトラクションは落語家の古今亭菊之丞師匠の古典落語で、「初天神」と「親子酒」の二席でした。又、師匠からの色紙をジャンケンで勝った人のおみや



げで、当たった人は記念になったことと思います。古典落語の中に「鹿政談」という噺があります。

その昔、奈良の方で鹿に大きな鹿角があれば、打ち首になるという時代に、まじめな豆腐屋の主人が、商売物のきらずを食べていた鹿を犬と間違ひ、誤って殺してしまふ。

奉行は、鹿を犬であったらろうと粋な裁きをし、主人は助かったという噺であるが、このきらずとは江戸、東京ではおからのことで、関西での言い方なのである。私の記憶の花巻でも、確

かにきらずと言っていたことを思い出したので。

それは、一瞬に花巻の思い出と重なり、又、その一瞬は人々の行交う様の足跡が、日本中を放射線状に駆け巡っているのを見た思いでした。

アトラクションの後、出席者全員での合唱。

楽しく時間の過ぎるのを惜しまれる会のひとときでした。

私は今、66才。高校を卒業し、長い間、東京で暮らしています。

この最近になってのことですが、行きつけの美容室に入店して来た女の子が、私の名づけ親となった人のお孫さんでした。それは全くの偶然の出会いで、彼女にとつては理由もわからずに、私一人が、自分史の走馬灯を見たような気持ちでした。

又、別の所で、これは趣味の会のほんの20人足らずの集まりの中のこと。花巻の実家の町内会だったという女性のご夫婦にめぐり会いました。この時は、双方ともに仰天したものです。こんな広い東京の中で、花巻の糸が点のように結ばれているのを感じ、胸を熱

くしました。

桜咲く上野の森、精養軒に年一回、花巻南高生だった自分に会いに行くのも、毎年繰り返し桜の花とともに、ひとつの区切りと考えてもいいのかもしれない。

盛岡支部

副支部長 黒川 俊子
(南高10回生)

まさに「天高く馬肥ゆる秋」の言葉に相応しい秋晴れのもと、平成26年度盛岡支部通常総会並びに懇親会が10月26日午前11時よりサucerンセル盛岡を会場に開催されました。

当日は学校長菅原教紀様、総務部長柴内三幸様、そして同窓会会長瓜生祐子様、副会長齋藤ワカ子様、同じく佐藤貴子様、監事石川映代様をご来賓としてお迎えし、支部同窓生97名の参加者を得ての会となりました。

総会次第と懇親会のプログラムは次の通りです。

- 総会次第
- 一、開会のことば
- 二、物故者への黙祷

三、支部長挨拶

四、来賓挨拶並びに来賓紹介

五、出席者紹介

六、会務報告

七、(一)平成25年度事業報告及び決算に関する件

(二)役員改選に関する件

八、その他

九、閉会のことば

○懇親会プログラム

一、はじめのことば

二、来賓挨拶

三、乾杯

四、余興

①詩吟

②花架拳

③軽体操

④ハワイアンフラ

⑤ひよこりひよたん島

⑥来賓ステージ

⑦みんなで歌いましょう

「世界の国から今日は」

「恋の季節」

「花南讃歌」

⑧同窓会音頭

五、校歌斉唱

六、来年度当番紹介

七、おわりのことば

ご来賓の校長先生からは、母校の運動部・文化部の現在の活躍振りと進路に向けての取り組みの様子



お話を頂きました。また校長先生のお住まいが肴町とこのことで盛岡支部の一員のようなものとの心温まるお言葉を頂きました。

瓜生祐子会長からは同窓会「なんだり、かんだり」のテーマの下、時折花巻弁を交えてのお話しが懐かしく、母校への思いを心強く感じました。

今年の余興は、みんなで歌って踊ってみんなで楽しみましょうを合い言葉に、格調高く詩吟が始まり、堤支部長さんの花架拳、そして軽体操、ハワイアンフラを参加の皆さんで手足を動かし、笑顔で参加して頂きました。当番学年の他支部からの応援もあつて、歌あり踊りありの賑やかな会に盛り上がりました。最後に校歌斉唱を高らかに歌い、今年度の当番学年の労をねぎらい、更に来年度当番学年の紹介を行ってお開きとなりました。

例年100名前後の参加者があり、母校を思う強い気持ちと同窓生としての絆が一層深まった感じがしました。この会を益々発展させるためにも来年もまたこの会でお会いできますことを楽しみにしたいと思います。皆さまお健やかに過ごして下さい。

北上支部

支部長 安藤 宣子
(花南6回生)

花南同窓生北上支部の会員の輪を幾重にも広げたい



と願って、支部長をお引き受けして初めての総会を開催致しました。

平成26年度北上支部同窓会並びに懇親会は、6月15日(日)10時よりホテルシティプラザ北上で行いました。

当日は、母校から、副校長の佐藤睦朗先生、事務長の佐藤陽子先生、同窓会長の瓜生祐子様、同窓会副会長の小瀬川陽子様、同窓会監事の石川映代様をお迎えし、同窓生36名で始まりました。

総会では、恒例の事業と決算報告、26・27年度の事業計画・予算が承認され、新役員も決定され無事総会は終了致しました。

総会に引き続き、講演会に移り、沢内村の碧祥寺の住職と光寿苑総合施設長をしておられる太田宣承氏から「一人十色の世界観」というテーマで13項目のお品書きで話される予定でしたが、時間の関係で講演資料の中の印象的なもの6項目をお話しされました。今までに多くの講演を聞く機会がありました。講話の項目も内容も実にユニークでしたので、ここで紹介させていただきます。

食前酒 三つの聞く作法

①箸初め「よく挫折したな」おめでどう!

⑤箸休め「平等感と公平性」

⑦蒸し物「一人十色の世界観」

⑧煮物「光寿苑オールドスターズ&男組の設立」

⑩飯物「インド人から学ぶ(0の発想)」

⑩飯物「アイヌ民族から学ぶ(神の話し言葉)」

*アルコール 愛しの「お尻事件」

講師は、現在、「子供達による寺子屋事業」「若者による地域を考える事業」「震災支援をしながら「町づくり、人づくり」を行っている人だけに、豊富な事例のもとに「一人十色の世界

観」で、自分の持っている色でその時その時に感謝し、いろんなことに精進しなさい。間違いないのだと話して頂きました。私達のこれからの生き方に多くの示唆を頂きました。時の経つのも忘れて拝聴した素晴らしい講演でした。

懇親会では、17回生の杉本節子さんのシャンソンを聴いたり、高女24回生の高野欣子さん作詞「花詩集」を合唱したり、詩吟踊り・歌と盛り上がり、笑顔いっぱいのお充実した会となりました。16・17回生の当番幹事の御世話に感謝し、次回の再会を約束して、散会しました。

今年度は、総会のない年です。1月の役員の新年会と母校訪問を予定しております。

嬉しいことに、昨年度は、照井浩様が叙勲を受けられ、引き続き、今年度は、小田島正志様が瑞宝双光章を受賞されました。2年続きの受賞に、北上支部としては、新年会で祝意を表したいと思っております。

最後に、母校並びに同窓会の益々のご発展と躍進を心からお祈り申し上げます。

石鳥谷支部

支部長 上山 準子
(南高10回生)

平成26年6月22日(日)午前10時より石鳥谷支部総会が「新亀家」にて開催されました。

御来賓として母校より、菅原教紀校長先生、本部より、同窓会長 瓜生祐子様、副会長 小瀬川陽子様、副会長 佐藤貴子様、事務局 幹事 渡邊奈緒子様の御臨席を賜りました。

瓜生会長様の御挨拶では先輩の方々の参加や活躍は大変嬉しい事であり、加えて若い同窓生にも、たくさん参加してもらえよう声がけをしていきたいと話しておられました。

校長先生からは生徒達の元気いっぱいな部活動の様子をお聞きし、卒業生の進路では進学、就職ともに多方面にわたっており、希望の道に進んでいる様子をお話くださいました。

総会は、皆様の御理解を得て滞りなく終わらせていただき、講演に移りました。「いつまでも美しく」という題で(株)JAシンセラ直



売部、部長の川村成志氏のお話をお聴きいたしました。

講師の川村さんは若手県のお生まれで、会長瓜生様が見前の学校に在職しておられた時、在学していた事が講演の直前にわかり、親しくお話をさせていただきました。

「美しく」なるためには食べる物は勿論だども、笑うことが大事なのと、お話の始めから終りまで懐かしい方言で、ユーモアあふれるお話でした。

川村さんは50代の方ですが、お店に来る方々と会話をするには、方言がしゃべれねばダメだと思ひ、年配

のお客様達から一生懸命学んだとの事でした。

美人になるには、人参、玉葱、ブロッコリー等々がいいそうですよ。

出席くださった方々の顔が和んだところで、記念撮影に入り、懇親会へと移りました。

高橋副支部長による祝吟の後、高女33回生の村上淑子さんに乾杯の音頭をとっていただきました。

色とりどりの器に盛られたお料理を召し上がっていただき、ご歓談いただきました。後半には役員によるレクリエーションダンスを披露させていただきました。

多くを準備できせんでしたが皆様の温かいお心遣いに感謝いたしながら、会を閉じさせていただきます。

支部長をお受けしてから初めての総会でございました。当日の朝はひんやりとした曇り空でしたので、雨にならないよう願っております。

会が進むに従い、日の光も差しはじめ、穏やかな日和となり安堵致しました。御出席くださいました皆様には、行き届かない所が

多々ありました事、お許しいただきました、お願い申し上げます。

終りになりましたが、母校の益々の御発展を心よりお祈りいたしております。

東和支部

事務局 熊谷 洋子

(南高16回生)

平成26年度東和支部通常総会が6月29日(日)午前10時から「パレレスまほろば」大ホールにおいて開催されました。

来賓として副校長佐藤睦朗先生・同窓会事務局新里ゆみ子先生・瓜生祐子同窓会長・斎藤ワカ子副会長・葛巻久美子常任理事・小野寺悦子東和支部初代会長・藤井安子第2代会長の御臨席を頂き会員40名の出席で始まりまして。

最初に支部長が挨拶に立ち10年ぶりに発刊した会員名簿作成に対する会員の協力に感謝の意を表し、今後とも役員一丸となり事業を進めるので、尚一層の支援をお願いする旨を述べられました。続いて瓜生会長から祝辞があり、同窓会の目

標・意義についてお言葉を頂き、会員が集まって親睦を図り更に母校の発展のため支部活動の援助を要望すると述べられました。

次に佐藤副校長先生から日頃の母校及び同窓会事業に対する支援に感謝し今後益々の発展と在校生への援助をお願いするとのお言葉を頂きました。

その後議事に入り、事業報告・決算・事業計画・予算・名簿発刊・役員改選と全ての議案について内容を慎重に審議の結果提案通り可決されました。最後に新役員の挨拶があり、総会は無事終了いたしました。

懇親会の前に研修として萬鉄五郎記念美術館の伊藤真紀子学芸員による「郷土の文化と芸術を学ぶ」と題し、萬記念館が独自で作成した手作りソフトの上映会が行われました。日本近代美術を代表する画家萬鉄五郎の生い立ち・人生・画家としての変遷、画風の変化等郷土を愛した萬鉄五郎の生涯を鑑賞いたしました。次に東和の方言ソフトが上演され、日常使っている方言・じいちゃんばあちゃんが使った懐かしい方言・意味が全く別にとられそうな

方言・なつかしくおかしくおもしろく見入ってしまうほどでした。大変有意義な研修会でした。

そして待ちに待った懇親会では瓜生会長を始め来賓の方々および会員の皆の歌や踊りそして体操(?)などなど……時間の経つのも忘れるほどの盛り上がりで、盛会のうちに終了いたしました。

来賓の方々及び会員の方々が多忙にもかかわらず多数参加頂きました事に深く感謝致したいと思えます。



平成26年度 同窓会事務局日誌

平成26年

4月8日(火) 入学式 本校体育館

4月13日(日) 東京支部総会 上野精養軒

4月16日(水) 会計監査 本校会議室

4月25日(金) 常任理事会 花籠

5月17日(土) 理事会及び総会準備会

ホテルグランシエール花巻

6月15日(日) 北上支部総会 シティプラザ

6月22日(日) 石鳥谷支部総会 新龜家

6月29日(日) 東和支部総会 まほろば

7月13日(日) 定期総会 花巻温泉ホテル紅葉館

10月26日(日) 盛岡支部総会 サンセール盛岡

11月4日(火) 第1回同窓会報編集委員会 まなび学園

平成27年

1月16日(金) 第2回同窓会報編集委員会

2月27日(金) 同窓会入会式 まなび学園

3月1日(日) 卒業式 本校体育館



表彰者紹介

人権擁護委員としての思いを新たに

小野 タエ子 (南高13回生)



私が人権擁護委員の委嘱を受けたのは平成

19年10月、8年目になります。今回の「岩手県人権擁護委員連合会長表彰」は、2期目を終えて御苦労様という『慰労』と、3期目もさらに精進せよという『激励』と捉え、課せられている活動を誠意を持って務めていこうと思っています。今回の表彰を受けて、思いを新たにしているところで

人権擁護委員の活動のひとつに人権相談があります。地域住民の悩みや心配ごとの相談を受け、それに対して適切な助言をし、当事者が自主的に問題解決に向かえるための援助をすることです。相談内容も様々で、女性・子ども・高齢者・障がいのある人等に対

する差別や虐待、プライバシー侵害、近隣間のトラブル、家事問題等挙げられますが、このような悩みをどこで相談できるのか周知することも大切な啓発の活動です。さらに小学生、中学生が抱えている悩みに対して、ひとりでは悩まないで誰かに相談してみようと呼びかける『いじめ防止カード』や『SOSミニレター』の配布を学校の協力をいただいて実施しており、悩み解決の一助となれば幸いです。まだまだ人権擁護委員として勉強不足で、人権相談の担当日となると朝から緊張してしまい、どっと疲れを感じます。今後も先輩委員から多くのことを学ばせていただきながら、相談者の悩みや思いを素直に受け入れ、共に解決に向けて寄り添う姿勢で臨みたいと思っております。

2013年度公衆衛生功労者 厚生労働大臣表彰を受賞して

佐藤 陽子 (南高20回生)

この度、思いがけず厚生労働大臣表彰を受賞いたしましたので、ご報告をさせていただきます。

この表彰は、一般には公衆衛生事業に長年尽力した功績が特に顕著と認められた人が対象となるといわれていますが、私自身が特別な功績をあげたというわけではありません。

昭和53年に花巻市に保健師(当時は保健婦)として採用されて以来、36年間赤ちゃんからお年寄りまで健康づくりの様々な事業にかかわり勤務できましたことが受賞の1つの要因かと思っております。

そして、2つ目の要因としては、市民の皆さんが花巻市の保健活動にとっても理解を示し、協

力してくださり、成果に結びついていることが考えられます。例えば健診の受診率なども県内14市のうち、常に1位か2位という状況を維持しております。

これまでを振り返ると、感染症や生活習慣病、精神保健、介護予防、最近では自殺対策、引きこもり対策などその時代時代の大きな課題に、先輩や同僚とともに



にかかわることができました。このこと自体が私にとつて宝物でございます。この街で保健師として仕事を続けられたことに心から感謝しております。

それと、私の花巻南高校時代の先生方についてです。当時の私は、美術部の部屋で漫画や絵を描いては、のんびり過ごしている学生でしたが、担任や進路指導の先生に「女も大学で学べる時代になったんだから、しっかりと資格を取って、自らの力で生きられるように学ぶんだ。」と励まされ、看護学、公衆衛生学の道に進むことができたのでした。

当時の先生方に大変感謝しております。

最後に、今回同窓会報に寄稿する機会を与えていただき大変ありがとうございます。どうぞ同窓会がますますご発展いたしますよう、ご祈念申し上げます。

表彰者(一覧)

●厚生保護

花巻厚生保護女性の会から感謝状

齋藤 加代子 (南高1回生)

●平成18年

藍綬褒章

八重樫 勵子 (南高2回生)

●平成26年秋の叙勲

瑞宝双光章

小田島 正志 (昭和38年卒業)

●平成26年春の叙勲

瑞宝双光章

今井 啓子 (南高13回生)

●調停委員として

仙台高等裁判所
長官表彰

佐藤 一枝 (南高14回生)



南高62回生 監事紹介

【学年代表幹事】

1組 佐々木麻琴



楽しい同窓会にできるよ
うにクラス代
表として精一杯頑張りたい
と思います。

3組 千葉 翠



責任を持つ
て、クラス代
表としてがんば
ります。

【各クラス監事】

1組 後藤 楓



みんなが盛
り上げられるよ
うな同窓会に
なるように頑張ります！

4組 佐藤 寛紀



責任をもつ
てクラスをま
とめ、よりよ
いものにしていき
たいと思
います。

2組 高野あゆり



分からない
ことがたくさん
ありますが、
がんばります。

5組 阿部 滉大



卒業してか
らみんな仲
良く集まれる
クラスにしたい
です!!

2組 梅津 真実



よりよい同
窓会となるよ
うに務めたい
です。

5組 菅原 唯



経験したこ
とのない役職
なので、うま
くできるか不安
ですが責任を
もって頑張
ります。

3組 大町 慎



クラス代表
として自分の
仕事をしつか
りやっつけてい
きたいです。

母校だより

平成26年度

進路合格状況

1 進路受験状況

約9割もの生徒が進学を希望し、一人ひとりの進路希望に応じた取り組みをしています。推薦入試、AOでは、国立立大学から専門学校まで、121名の生徒が受験に挑みました。国立立大学の推薦、AO受験には23名が挑み、9名が合格。小論文、志望理由書、面接など、その頑張りは後輩に受け継がれてほしいものです。

月休み返上での指導、添削指導など受験に向けてバックアップしています。一般入試のうれしい結果も届いてきました。

●主な合格先

(平成27年2月16日現在)

〈国立立大学〉

弘前大(1) 岩手大(3) 岩手県立大(3) 都留文科大学(2)

〈私立大学〉

盛岡大(8) 東北学院大(7) 東北福祉大(1) 東北公益文科大学(6) 日本大(2) 大東文化大(1) 駒沢大(1) 二松学舎大(1) 等

〈医療系専門学校〉

国立仙台医療センター附属仙台看護助産学校(1) 県立一関高等看護学院(2) 県立宮古高等看護学院(2) 岩手リハビリテーション学院(2) 岩手看護専門学校(1) 花巻高等看護専門学校(5) 一関市医師会付属一関看護学院(1) 仙台保健福祉専門学校(1) 東北

保健医療専門学校(1) 東北文化学園専門学校(1) 日本福祉看護・診療放射線学院(1)

競争率の高い公務員試験への合格は特筆すべきことです。

●主な内定先

(平成27年2月16日現在)

花巻農業協同組合(総合)

(2) アイオー精密(技能)

(2) リコー光学(技能)

マーマ食品(事務)

ホテルグランシエール花巻(サービスマン)

和同産業(技能)

花巻温泉(サービスマン)

花果(販売)

ガーデンリゾート(サービスマン)

他

2 就職内定状況

民間就職者は23名。地元志向が強まり、花巻・北上地区への希望が増加しています。

また、公務員希望者は増加傾向にあり、3名(岩手県立学校、盛岡市消防職、自衛官)が内定しました。





部活動の記録



ソフトテニス部女子
県新人大会団体、個人（熊谷・菅原組）優勝!!

ハンドボール部女子
県新人大会準優勝!!東北大会出場



合唱部
吹奏楽部
各種大会、発表会にて優秀な成績をおさめ、同窓会総会でも会場を盛り上げてくれました!!



応援歌練習

学校行事の記録



避難(消火)訓練



花南祭



地域清掃活動



修学旅行 大阪城



体育祭



修学旅行 シンガポール



国際交流 (海外ホームステイ研修)

昨年度は、韓国コース、ハワイコースそれぞれ8名、15名と多くの生徒を海外派遣することができました。様々なプログラムを通じて、異文化交流を図りました。

1. 韓国コース

派遣期間 平成26年3月15日(土)～3月19日(水)
派遣場所 韓国 安養外国語高等学校
参加生徒 1年2名 2年6名



温かい歓迎



安養高校前で記念撮影



韓国の給食と一緒に



チマチョゴリを着ました

2. ハワイコース

派遣期間 平成26年3月23日(日)～3月30日(日)
派遣場所 ハワイ レイレリア高等学校
参加生徒 1年5名 2年10名



ダイヤモンドヘッドに登りました



歓迎会でのレクリエーション



レイ作り体験



音楽の授業に参加

編集後記

高橋 昭三

南北両校に分離以降、実に60余年の歳月が流れました。然して現今、薄れ行く記憶の中、多少の偏見と断絶を交えながら、その極一部に触れてみたいと思います。

記

一、昭和27年4月当時、花巻高校は第一校舎(現桜台小学校)第二校舎(現まなび学園)に分かれておりました。
二、第二校舎の応援歌練習では、最上級生の2年生に大分気合いを入られました。
当時、校歌、応援歌は現在の南北両校のそれを使っておりました。

三、翌28年4月、同校は南北両校に分離となり第一校舎は花巻北高、第二校舎は花巻南高とそれぞれ名称が変わりました。
四、窓ガラスに防護木枠を施した「時中堂」では運動部員が所狭しと暗くなるまで練習に励んでおりました。
五、二年間務めた応援団リーダーは、傍で見る程、気楽なものではありませんでしたが、今では懐かしい思い出となっております。
六、校舎解体現場臨検の際、偶々旧2B附近を目の当たりにした途端、人知れず目頭が熱くなりました。徒に駄文を連ねている間に、つい紙数が尽きてしまいました。
いささかでも、往時を偲ぶ縁となれば幸いに存じます。



編集委員長 高橋 昭三 (南2)

編集委員

小瀬川陽子 (南5)

石川 映代 (南6)

齋藤ワカ子 (南11)

本館 博子 (南15)

照井 重美 (南16)

葛巻久美子 (南18)

佐藤 仁実 (南37)

戸来 誠 (南41)

事務局

佐藤 陽子 (南23教師)

渡邊奈緒子 (南40講師)